

「組織マネジメント」を活用した「校内研究」について考える



令和5年度第1回管内地域授業改善協議会からの学び

【日田教育事務所】

【要旨】

要旨 「第1回日田管内地域授業改善協議会」

◆参加者

○小・中学校 指導教諭、研究主任、管理職等 ○管内市町教育委員会関係者 ○教育事務所 計49名

◆大雨のため、「集合方式」(7/4日)から、「DVD視聴<7/27~>・アンケート<~9/29>・HPIによる全体共有」に変更実施

◆目的

管内の各小・中学校の指導教諭、研究主任等を対象に、組織マネジメントを活かした校内研究についての説明・協議を行うことにより、各学校における組織的な授業改善の推進に資する。

【受講者アンケートの回答より】

研究主任としての役割・再確認

■研究主任としてリーダーシップを発揮し、校内研究を進めることは大きなプレッシャーだが、それが責務である。

■校内研究テーマだけでなく、学校の教育目標を意識して、そこからずれないように進めたい。

■学校において最も重要な授業について、研究主任の役割や責任の大きさを実感。自分自身、授業についてさらに学びを重ねたい。

「自立した学習者」と単元構想

■教育活動の最終ゴールは、「自立した学習者」を育てること。この大きなゴールイメージを全教職員で共有したうえで、校内研究を進めていきたい。

■「算数など教材単元が教え込みにならないように」「生活科など経験単元が活動ありきにならないように」ということが印象的だった。

■児童生徒の実態や課題を丁寧に把握し、教職員間で共有することをあらためて大事にしたい。

もっとチャレンジ！

■組織的な取組において、各学校で失敗を恐れず、みんなで知恵を出し合っ取り組もうとする雰囲気や姿勢を醸成していきたい。

■児童生徒と同じく学校もチャレンジャーでありたいと思った。

組織マネジメントの大切さ

■授業改善や校内研究の取組は、「個の頑張り」ではなく、「組織マネジメント」を通して充実させることがわかった。

■研究主任として、管理職に情報を提供した上で助言を求めたり、指導教諭と連携したりして、校内研を推進することの大切さを確認できた。一人で抱え込まないこと。

■小規模校(単学級)であるため、教師個人の授業力やカリ・マネ力に頼りがちだが、目指す子ども像を明確にすることで、個人の個性を活かしつつ、組織的な取組につなげたい。

■学校規模に応じて、組織づくりも異なっておりよいことがわかった。教職員が少人数かつ幅広の年齢層であると、マネジメントの難しさがあるが、一人一人の役割を明確にしてつないでいきたい。

■メンター方式を取り入れた校内研究は、組織マネジメントの一環である。さらに質を高めたい。

■管理職として主要主任・教職員それぞれの意識向上を図り力量向上につなげるためにも、組織をどう作り、どう動かすか、あらためて考えることができた。

★第2回目は、「単元構想力の向上」と「校内研究」について深掘りする予定です。よろしくお願いします。